

2024年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース	教科担任
公民	倫理	3	3年次	二瓶賢一

選択するときの条件				
-----------	--	--	--	--

使用教科書	高等学校 公民科「倫理」(35・清水・倫理703)	使用副教材	教科書準拠ワークノート、 テオリア最新倫理資料集(第一学習社)
-------	---------------------------	-------	------------------------------------

科目の目標		道徳教育のねらい
・人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせる。 ・現代の諸課題を追求したり解決に向けて構想したりする活動を行う。 ・広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。		人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

学習活動内容		育てたい6つの力(資質・能力)					
		1	2	3	4	5	6
		主体的学習力	基礎力	思考・分析力	発信・表現力	自他認知・協働力	計画実行力
1	第1編 現代を生きる自己の課題 個性的な主体としての自己/心と行動をめぐる探究	○	○	○		○	
2	第2編 人間としての自覚 源流思想①(ギリシャ思想、キリスト教、イスラーム) 源流思想②(仏教、儒教)	○	○		◎	○	
3	第3編 現代をかたちづくる倫理 西洋近代思想	○	○	◎		○	
4	第4編 国際社会に生きる日本人としての自覚 日本思想	○	○			○	
5	第5編 現代における諸課題の研究 環境倫理、生命倫理、科学技術、多様性、国際社会		○	◎		○	
授業での取組		◎			○	◎	
課題への取組		◎	○	○	◎	◎	◎
定期考査		◎	◎	○			○

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。 ・諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめることができる。	・自立した人間として、他者と共によりよく生きる自己の生き方について、より深く思索することができる。 ・現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、理論的に思考し、説明したり対話したりすることができる。	・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしている。 ・多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めている。

評価の方法	①観点別評価 各評価の観点について以下の点数を配分し、それぞれの達成度合い(%)をABCで評価する。	<table border="1"> <tr> <th>観点</th> <th>場面</th> <th>授業での取組</th> <th>課題への取組</th> <th>定期考査</th> <th>各観点の配点</th> </tr> <tr> <td>知識・技能</td> <td></td> <td>10</td> <td>20</td> <td>70</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>思考・判断・表現</td> <td></td> <td>10</td> <td>20</td> <td>30</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>主体的に学習に取り組む態度</td> <td></td> <td>10</td> <td>20</td> <td>10</td> <td>40</td> </tr> </table>	観点	場面	授業での取組	課題への取組	定期考査	各観点の配点	知識・技能		10	20	70	100	思考・判断・表現		10	20	30	60	主体的に学習に取り組む態度		10	20	10	40	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>70%~100%</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>45%~69%</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>0%~44%</td> </tr> </table>	A	70%~100%	B	45%~69%	C	0%~44%
	観点	場面	授業での取組	課題への取組	定期考査	各観点の配点																											
知識・技能		10	20	70	100																												
思考・判断・表現		10	20	30	60																												
主体的に学習に取り組む態度		10	20	10	40																												
A	70%~100%																																
B	45%~69%																																
C	0%~44%																																
	②100段階評価(定期考査毎)および5段階評定(学年末) ①の各観点の配点の合計(200点満点)を100点に換算し評価する 学年末に右表により5段階(5~1)で評価する。<評定>	<table border="1"> <tr> <td>十分満足、特に高い</td> <td>5</td> <td>80~100</td> </tr> <tr> <td>十分満足</td> <td>4</td> <td>65~79</td> </tr> <tr> <td>おおむね満足</td> <td>3</td> <td>45~64</td> </tr> <tr> <td>努力を要する</td> <td>2</td> <td>30~44</td> </tr> <tr> <td>努力を要する、特に低い</td> <td>1</td> <td>0~29</td> </tr> </table>	十分満足、特に高い	5	80~100	十分満足	4	65~79	おおむね満足	3	45~64	努力を要する	2	30~44	努力を要する、特に低い	1	0~29																
十分満足、特に高い	5	80~100																															
十分満足	4	65~79																															
おおむね満足	3	45~64																															
努力を要する	2	30~44																															
努力を要する、特に低い	1	0~29																															

倫理 授業計画

学習指導計画					実施状況	
月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省	
前期	4月 8	第1編 現代を生きる自己の課題	人間とは何か	1	前期	
	5月	第1章 個性的な主体としての自己	心のあり方を科学的に探究してきた心理学者の知見を手がかりに、個性、パーソナリティ、欲求、発達に着目して、豊かな自己形成に向けて他者と共によりよく生きる自己の生き方について思索を深める。	1 心の機能と個性 2 パーソナリティの形成と「私」		1
		第2章 心と行動をめぐる探究		1 人間の活動を支える心 2 認知のしくみ 3 生涯にわたる発達		2
	6月 ●考査	13 第2編 人間としての自覚	合理主義の由来となるギリシャ思想の知見を手がかりに、徳、幸福、愛に着目して、人間としての在り方生き方について思索を深める。	1 神話から哲学へ 2 ソクラテス 3 プラトン 4 アリストテレス 5 ヘレニズムの思想		7
		第1章 哲学の資源:ギリシャ思想				
	14	第2章 唯一神の宗教:キリスト教・イスラーム教	ユダヤ教、キリスト教、イスラームの一神教が神と人間の間をどのように捉えたか、相互比較を通して理解を深める。キリスト教の原罪、贖罪、神の愛、隣人愛の理解を通して自己の課題と結びつけて考察する。	1 ユダヤ教 2 キリスト教 3 イスラーム		6
		第3章 東洋思想の源流:仏教・儒教	仏教の人間観・人生観(苦、縁起、空、慈悲など)、儒教の説く人間についての見方・人間関係の在り方、さらには老荘思想における人間観を理解し、共同体の在り方や人間相互のつながりについて自己の課題と結びつけて考察する。	1 パラモン教 2 ブッダの思想 仏教の展開 1 儒家の教え 2 儒教の展開 3 道家の思想		4 6
	7月 5	第4章 芸術と倫理				
		第3編 現代をかたちづくる倫理		<西洋哲学主な内容> ①1 ルネサンスとヒューマニズム 2 ルター、カルヴァン 3 モラリスト ②1 近代科学の思考法 2 ベーコン、バークリ、ヒューム 3 デカルト、スピノザ、ライプニッツ ③1 社会契約接 2 カント 3 ヘーゲル 4 功利主義 5 プラグマティズム ④1 社会主義 2 実存主義 3 現象学 レヴィナス 4 アーレント、ハーバーマス、フランクフルト学派、ロールズ、サンデル 5 社会参加 1 ベルクソン、フロイト、ユング、レヴィストロース、ポスト構造主義 2 言語論的転回 3 科学哲学		21
	8月 6	第1章 近代の成立				
第2章 芸術と人間をめぐる探究 ①人間の尊厳 ②経験論と合理論 ③民主社会と倫理 ④現代社会と個人		②近代科学の思考法、経験論と合理論を通して人間の認識を考察する。 ③民主社会と人間の在り方についての思想を通して、善、正義、義務等に着目し、社会の在り方と人間の在り方を考察する。 ④自己実現と幸福を論じた実存主義や世界を捉える知の在り方を論じた現象学、その他近代西洋哲学を通して世界と人間の在り方について考察する。				
9月 ●考査						
後期	12	第4編 国際社会に生きる日本人としての自覚	<日本思想主な内容>	10	後期	
	10月 10	第1章 日本の風土と精神文化 ①日本人の人間観自然観 ②日本人の仏教受容 ③近世社会の思想	①1 日本人の生活 2 カミの観念 3 神仏 ②1 古代仏教の思想(聖徳太子～最澄、空海) 2 鎌倉仏教(法然、親鸞、栄西、道元、日蓮) ③江戸時代の儒学諸派から幕末までの流れ 1 儒学の伝来と朱子学 2 陽明学 3 古学 4 国学 5 庶民の思想 6 幕末の思想			
		第2章 日本の近代化と人々の生き方 ①西洋近代精神の接種 ②近代的個人の自覚 ③主体的な生き方と価値観の模索	②外来思想である仏教を、日本独自の需要やその思想形成と発展を通して、それらが日本人の思想形成にどう影響を及ぼしたか理解する。 ③外来思想である儒教を、江戸時代の歴史を通して理解させる。古代の日本人の精神の究明に努めた国学から幕末の思想への流れを理解する。			
	11月 10		①1 啓蒙思想家の活動 2 国家と個人の衝突 ②1 近代的自我の成立と個人主義 2 社会主義思想 ③1 近代日本の哲学者 2 近代日本思想の反省 3 現代日本と課題	10		
	●考査	第5編 現代における諸課題の探究		9		
12月 10	第1章 自然や科学技術をめぐる諸課題	科学技術の進歩と人間との関わりについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する戦略や理論などを手がかりとして多面的・多角的に考察し、自分の考えを論述する。	1 環境と倫理 2 生命と倫理 3 科学技術の発展とその課題			
	第2章 社会や文化にかかわる諸課題	福祉、文化、宗教、平和などについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手がかりとして多面的・多角的に考察し、自分の考えを論述する。	1 文化や宗教の多様性と倫理 2 国際平和と人類の福祉	10		
1月 2月						
3月						